

2023 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：Terminology 課題研究会

設置期間：2023 年 3 月 23 日～2026 年 3 月 31 日

代表幹事の氏名・所属：

河添 悦昌・東京大学大学院医学研究科

幹事の氏名・所属：

木村 通男（川崎医療福祉大学）

荻島 創一（東北大学）

武田 理宏（大阪大学）

荒牧 英治（奈良先端科学技術大学院大学）

大江 和彦（東京大学）

活動成果の概要：

HL7-FHIR をはじめ標準化された診療情報をリアルワールドデータとして活用するためには、医療分野の用語を整備し、これを持続する必要がある。2023 年度は、第 3 期戦略的イノベーション創造プログラムにおいて、「医療機関・ベンダー・システムの垣根を超えた医療データ基盤構築による組織横断的な医療情報収集の実現（テーマ D1）」ならびに「統合型の医学概念・知識連結データベースの構築及び医療文書の自動分析基盤の整備（テーマ D2）」に参画し、これらプロジェクトのアウトリーチ活動と連動する形式で医療情報の標準化とそれを支える用語基盤の重要性を述べてきた。また、日本医療情報学会の HL7®FHIR® 日本実装検討 WG (NeXEHRs 研究会) のサブワーキンググループにおいて、各種 FHIR プロファイル (JP Core AllergyIntolerance、JP Core Condition、JP Core Condition Diagnosis、JP Core Procedure、JP Core FamilyMemberHistory) を定義するうえで必要となるコードシステムについての検討を行った。特にアレルギーのコードシステムについては、これを新しく開発し、厚生労働省が開発を進める電子カルテ情報共有サービスのアレルギーコードの候補となるに至った。

活動成果の発表：

[雑誌論文] 計 (1) 件

① 榎原芽美, 柴田大作, 篠原恵美子, 河添悦昌, 大江和彦. UMLS からの同義語を追加し

た形態素解析辞書を使用した Phenotyping の性能評価. 医療情報学 44(1): 21-18, 2023.

[学会発表] 計(2)件

- ① 河添悦昌, 永島里美, 大江和彦. アレルギー情報の標準化を目指す J-FAGY アレルゲン用語集. 第 43 回医療情報学連合大会.
- ② 関 倫久, 河添悦昌, 大江和彦. 国内医療機関ウェブサイトにおけるアクセス解析サービスの利用状況の調査研究. 第 27 回日本医療情報学春季学術大会. 2023 年 6 月 30 日.

[その他] 計(5)件

- ① ChatGPT が医療に与えるインパクト。日本医療情報学会 NeXEHRs 研究会 緊急シンポジウム ChatGPT は医療情報研究と医療を変えるか? (2023 年 5 月 19 日)
- ② 医療デジタルツインを加速する自然言語処理. 第 31 回日本医学会総会 U40 委員会企画 AI は医師を置き換えるか? ~医療 AI の未来予想図~ (2023 年 4 月 22 日)
- ③ アレルギーのコード JFAGY の策定. 日本医療情報学会 NeXEHRs 研究会. 「医療 DX における標準化: 次世代医療情報標準 FHIR の新しい展開」(2023 年 11 月 28 日)
- ④ 内閣府 SIP: 統合型ヘルスケアシステムの構築に向けた組織横断的な医療情報収集の実現. 日本医療情報学会 NeXEHRs 研究会. (2023 年 12 月 13 日)
- ⑤ SIP 統合型ヘルスケアシステムの構築 公開シンポジウムテーマ D1 医療機関・ベンダー・システムの垣根を超えた医療データ基盤構築による組織横断的な医療情報収集の実現 (2024 年 03 月 22 日)
- ⑥ SIP 統合型ヘルスケアシステムの構築 テーマ D2 統合型の医学概念・知識連結データベースの構築及び医療文書の自動分析基盤の整備 (2024 年 03 月 22 日)